

所 属 鳥取県漁業協同組合（御来屋支所）
氏 名 はた かつま
畑 勝馬（50歳）
船 名 かいきまる
海輝丸 3.6トン
漁業種類 刺網（サワラ・アジ・ハマチ）、曳縄釣り（サワラ）



～御来屋有数の実力派漁師。若手漁業者の憧れの存在～

御来屋の若手漁業者の中で常に水揚げはトップクラス。この度の若手漁業者への取材で、目指したい漁師を挙げて欲しいと聞いたら、ほぼ皆さんから畑さんの名前が挙がってきた。実際に若手を食事や飲み会に誘い、悩みや意見を汲み取るリーダー的な存在でもある。

大阪府出身で、京都の伊根で旋網漁の船員を経験して、33歳の頃に漁業研修制度がある鳥取に移り、自分の船を持った。

やはり気になるのはどうやってそんなに多くの魚を獲ることができるのか、そこには沢山の秘訣があり、そう簡単には聞き出せそうになかったが、「安定した水揚げをあげるには、いつでもどんな魚が獲れているか常に情報収集する」ことが大切と教えて頂いた。

また、1年通してコンスタントに水揚げがあるわけではなく、「サワラなどが一番良く獲れる冬場は一日で他の時期の1ヶ月分の利益がある」こともあり、効率的に漁をすることを心がけているようだ。ただし、「冬場の1日の作業の負担は大きく、それをこなすのは体力的に相当辛い」とのこと、水揚げトップクラスだからこその苦勞も垣間見ることができた。

～御来屋の漁業を存続させるためには～

畑さんの最近の気がかりは、御来屋地区の漁業者の後継者問題である。県外からやる気のある希望者をもっと積極的に受け入れたり、現在の御来屋の独身漁業者にもっと頑張ってもらい早く良い相手を見つけ、後継ぎをたくさん作って欲しいと気にかけている。

自身がいつも心がけている効率的な漁をするには、やはり一人の力では限界があるため、作業を分担して行えるような体制を整えていく必要があるとおっしゃっていた。

（文責：藤原 大吾）